

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課、高速道路課
担当課長名：前佛 和秀、長谷川 朋弘

事業名	一般国道468号 <small>しゅとけんちゆうおうれんらくじどうしゃどう たいえい よこしば</small> 首都圏中央連絡自動車道（大栄～横芝）	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局 東日本高速道路(株)
起終点	自：千葉県成田市吉岡 至：千葉県山武市松尾町谷津	延長	18.5km		
事業概要					
<p>首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、東京都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている延長約300kmの高規格幹線道路であり、3環状9放射道路ネットワークの一部を形成し、東京都中心部への交通の適切な分散を図り、首都圏全体の交通の円滑化、首都圏の機能の再編成等を図る上で重要な路線である。</p> <p>大栄～横芝間は、圏央道（つくば～大栄）に接続し、千葉東金道路、東関東自動車道水戸線と連絡することにより、千葉県と茨城県等とを結ぶ広域的な高速交通ネットワークを形成するものであり、沿線都市間の連絡強化、企業活動・地域づくり支援、災害時の代替路確保を目的とした延長18.5kmの自動車専用道路である。</p>					
H20年度事業化		H19年度都市計画決定		H25年度用地着手	
H27年度工事着手					
全体事業費	約1,490億円	事業進捗率	約46%	供用済延長	—km
(令和2年3月末時点)					
計画交通量	16,100～23,400台/日				
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	(事業全体) 1.1	(残事業)/(事業全体) 1,005/1,442億円	(残事業)/(事業全体) 1,602/1,602億円	令和2年	
	(残事業) 1.6	事業費：813/1,250億円 維持管理費：192/192億円	走行時間短縮便益：1,427/1,427億円 走行経費減少便益：124/124億円 交通事故減少便益：51/51億円		
感度分析の結果					
<p>【事業全体】交通量：B/C=1.0001～1.2（交通量 ±10%）【残事業】交通量：B/C=1.4～1.8（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.1～1.2（事業費 ±10%）事業費：B/C=1.5～1.7（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.02～1.2（事業期間±20%）事業期間：B/C=1.5～1.7（事業期間±20%）</p>					
事業の効果等					
<p>(1) 交通混雑の緩和・交通安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並行する（主）成田小見川鹿島港線の寺台交差点および（主）成田松尾線の文化センター入口交差点は主要渋滞箇所にて特定。 ・並行する（主）成田小見川鹿島港線および（主）成田松尾線の事故類型別事故発生状況は、車両相互の追突事故が約5割。 ・圏央道（大栄～横芝）の整備により、交通混雑の緩和や交通事故の減少が見込まれる。 <p>(2) 沿線地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿線市町では、圏央道（大栄～横芝）のIC周辺地域を中心に物流・産業拠点、交流拠点、住宅団地等の整備が進められているとともに、今後も計画がされている。 ・圏央道（大栄～横芝）の開通により、産業振興、観光振興、集客・交流促進、雇用機会の拡大などが図られ、周辺地域の活性化に寄与することが期待される。 <p>(3) 企業活動・地域づくり支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏央道（大栄～横芝）の沿線に位置する成田国際空港は国内の航空貨物取扱量第1位であり、国内の約4割を占める重要拠点。 ・圏央道（大栄～横芝）の開通により、成田国際空港へのアクセス性が向上し、産業集積を支援。 					
関係する地方公共団体等の意見					
<p>千葉県知事の意見：圏央道は、アクアラインと一体となって、首都圏の各都市と成田空港などの拠点間を環状につなぎ、国際競争力の強化や地域経済の活性化を図り、災害時の道路ネットワークを強化する極めて重要な道路である。</p> <p>圏央道沿線地域における観光入込客数の増加や輸送時間の短縮など、経済に好循環をもたらすストック効果が現れている。</p> <p>こうした効果を県内全域に波及させるためにも、唯一の未開通区間である大栄・横芝間の一日も早い開通が必要である。</p> <p>については、事業の継続が必要であり、開通目標の令和6年度に確実に開通するよう、事業の推進を図られたい。</p> <p>事業費については、県の負担増とならないよう有料道路事業を活用するとともに、引き続き、コスト縮減を図りながら、効率的に事業を実施されたい。</p>					

